

特選映画

「ホワイト・クロウ」

華やかなグランドバレエのステージを「光」とするなら、この映画が描いているのはバレエ界の「影」の部分だ。

1961年、パリ公演の際に亡命。欧洲バレエの歴史を塗り替えた鬼才ドルフ・ヌレエフ（38歳、ソビエト連邦出身）の半生を描いた「ホワイト・クロウ～伝説のダンサー～」（レイフ・ファインズ監督）である。

タイトルの和訳は「白いカラス」。つまり「類（たぐい）稀な存在」「はぐれ者」だったヌレエフを象徴したギーワードである。ヌレエフを演じるのはカザン（ロシア連邦）タタール劇場プリンシパ

ルのオレグ・イヴェンコ。彼はヌレエフにとても良く似ている。ヌレエフの現役時代を知る評論家によれば「ダンサーとしての併まいもそつくり」とか。物語は、ヌレエフが生

始まり、17歳で入学したワガノワ・バレエ・アカデミーでの奔放な振る舞い、恩師アレクサンドル・キーロフバレエ（現マリ

鬼才ヌレエフの亡命までを描写

10日から伏見ミリオン座で公開



©2019 BRITISH BROADCASTING CORPORATION AND MAGNOLIA MAE FILMS

れ、シリアスな現実感があふれた。バレエを愛する人々には、意義深い作品である。なおこの映画ではイヴェンコがヌレエフとして「白鳥の湖」〔ラ・バヤダール〕「ローレンシア」のワンシーンを踊る。英國ロイヤルバレエ団ほかでプリンシパルを務めたセルゲイ・ボルニーの出演も見逃せない。

5月10日から伏見ミリオン座で公開。TEL 052(212) 2437。

西川長寿ゆかりの作品で追善



故・西川長寿と長寿「小鍛冶」

足跡を振り返る「長寿を偲ぶ」、そして長寿の「都風流」。

現代大正琴「小池流」（小池真琴・家元）が、6月2日（午後1時）愛知県芸術劇場小ホールで「アンサンブル・コンサート」を開く。

▽大正琴＝高齢者のイメージを一新する、ピアノ奏者ならではの高度な技術。今回は「ボレロ」「ルパン三世のテーマ」「動物の謝肉祭」ほか、クラシック、ジャズ、ポップスの名曲を、ピアノを交えて披露する。

▽西川長寿ゆかりの作品が並ぶ。

章の人・長千代の「松廻羽衣」、鯉喜文・長秀の「時雨西行」など長

寿ゆかりの作品が並ぶ。

▽西川長寿は「長年父

かりやすく見て楽しむ日

がテーマにしてきた、分

かりやすく見て楽しむ日

18年度名古屋音楽・ベンクラブ賞 松波千津子、石橋直子に

第14回(2018年度)

サイタル「アルトへの原

区で行われたクラシック
音楽の公演を対象に、こ
れまでに41件を表彰して
いる。

過去の受賞者によるコ
ンサート「音環Ⅲ」を9

月12日、電気文化会館で
開く。

名古屋音楽・ベンクラブ賞
にソプラノ松波千津子、ヴ
オラ・石橋直子の2人が選
ばれた一演奏会開催順。

▽松波千津子ソプラノ
リサイタル「ルチア」(10
月7日・電気文化会館)。

岩田達宗の演出によるド
ニゼッティのオペラ「ラ
ンメルモールのルチア」
を照明と衣装を活用した
ダイジェスト版で熟練

した歌唱と表現で魅了し
た。ピアノは河原忠之、共
演は澤脇達晴、永井秀司。

古屋市内のホテルで。

同クラブ(藤井知昭代

表)は音楽学者、評論家、
構成。前年度に名古屋地

介。表彰式は9月20日、名

ク「ヴィオラとピアノの

ためのソナタ」など珍し
い作品を、パー・カッショ

ン曾生知曰、ピアノ桑野

郁子と共に演。安定した技

術でヴィオラの魅力を紹

介。表彰式は9月20日、名

ク「ヴィオラとピアノの

ためのソナタ」など珍し
い作品を、パー・カッショ

姉妹の異なる音楽個性を対比させ

加藤二葉・瑞木姉妹

ヴァイオリンの加藤二葉・加藤瑞木ジョイントリサイタル（4月13日・電気文化会館）。姉妹の華麗な競演が楽しめた。

のは珍しい。二葉がチャイコフスキ「憂鬱なセレナード」「バルトーカ」「ルーマニア民俗舞曲」、瑞木がパガニーニ「ソナタ第12番」、「ロツシーニ「セビリアの理髪師」(編曲)などテクニックで聴かせる作品が目立った。

2人とも確かな技術を持ち、魅力ある演奏だっ

た。どちらかと言えば二葉は美しく響かせ、瑞木は豪快なテクニックで聴かせる。姉妹でも個性は異なる。それを考慮してか交互に演奏する構成で、姉妹の聴き比べも興味深い。

たた2人そろっての演奏はアンコールだけ。もう少し聴きたい気がした。

う少し聴きたい気がし

る姿勢に若い才能を感じた。

シユーマン、モーツア

ルト、サンサーンス、ド

ビュッサー、ヴィエニヤ

フスキを1曲ずつ。よく

知られた曲ではないが、

バラエティーに富み、樂

しませた。

これほど多彩な曲目

を、若い効谷とピアノの

近藤聰美は、豊かな音色

で細かなニュアンスまで

表現し、完成度の高い演

奏を披露した。

特に優雅なサロン風の

モーツアルト「ソナタ第

32番」、印象派の絵画の

「ソナタ」は、大人の対

話を思わせるアンサンブルだった、

すくなく、

効谷だが、さらに魅力的

なアーティストになる可

能性に満ちている。

これまでに注目されている

効谷だが、さらには、

その個性が、

彼女自身の性格なのか?

田彩乃は華やかさのある

女性の性格なのかな?

田彩乃は、ほどよくバランス

が取れていたようだ。い

ずれも名古屋の貴重なソ

リストとして期待できる

人たちだ。

田彩乃は、ほどよくバランス

が取れていたようだ。い

ずれも名古屋の貴重なソ

リストとして期待できる

人たちだ。